

技能検定期実技試験が実施

今回より内装仕上げ施工職種に追加された「化粧フィルム工事作業」は、7月19日から22日まで、多摩職業能力開発センター多摩校で実施された。第1回の検定ということで入念な準備で臨んだ受検者もあり、全体的に打切り時間内に終了する受検者が多かった。1級42名、2級2名が受検、東装協からは1級3名が受検した。

内装仕上げ施工 技能検定<化粧フィルム工事作業>

今年度より内装仕上げ施工職種に新たに加わった「化粧フィルム工事作業」。

ここでは、その1級および2級の実技試験について紹介する。

【1級 実技試験】

試験架台に化粧フィルムを貼る。

◆ 試験時間

標準時間=2時間30分、打切り時間=3時間。

◆ 仕様

- ① 試験架台のA面、B面、C面に化粧フィルムを施工する。
- ② 各面の施工順序は自由。
- ③ 試験架台の上縁を天井、下縁を幅木と想定し施工する。
- ④ 試験架台には、直に墨付けしないこと。

【A面】

(1)~(5)および、「A面施工図」に従い、A面に化粧フィルムを施工する。

(1) 2枚の異なる

- ① 化粧フィルム(淡い単色)および
- ② 化粧フィルム(濃い単色)を「A面施工図」のようにドア上辺左の頂点から下部右の頂点の対角線に沿って、斜めにジョイントすること。

なお、ドアノブは外さない。また、ドアノブには化粧フィルムを貼らないこと。

(2) ドア枠(三方枠)は、濃い単色の化粧フィルムで貼り、角は留め仕上げとすること。

なお、ドア上枠の天井面への化粧フィルムの折り返し幅は自由とする。

(3) ガラリの四方枠は、濃い単色の化粧フィルムで貼り、角は留め仕上げとすること。

なお、ガラリの四方枠の中は、化粧フィルムを貼らないこと。

(4) A面袖壁部は、③化粧フィルム(淡い単色)をドア枠の端部から貼り出し、A面入隅から300mmの位置まで貼り、その位置で④化粧フィルム(濃い単色)とジョイント(突付け)すること。

(5) A面とC面との境界は、ドア枠と木口との段差部分でカットして仕上げること。

【B面】

「壁面部」「合板部」および「B面施工図」に従ってB面に化粧フィルムを施工する。

「壁面部」

- (1) ④化粧フィルム(濃い単色)を、中央の合板部を避けてそのままB面に貼り、A面の③化粧フィルム(淡い単色)とジョイント(突付け)すること。
- (2) C面側の端部(C面方向の出隅)については、B面から④化粧フィルム(濃い単色)をC面側の⑦化粧フィルム(淡い単色)とジョイント(突付け)する。

「合板部」

- (1) 合板部にある3mm幅および5mm幅の溝にパテ処理を行う。
- (2) パテ処理後、パテ処理箇所および合板部の4側面にシーラー処理をする。
- (3) 合板部に向かって右に濃い単色の⑤化粧フィルムを、向かって左に淡い単色の⑥化粧フィルムを貼ること。
また、⑤および⑥の化粧フィルムは、合板部中央の10mm幅の溝の中で右上前でジョイントすること。
なお、ジョイント部の重ね幅は10mmとすること。
- (4) 合板部の4側面については、(3)と同様に⑤および⑥の化粧フィルムを貼ること。
なお、出隅4箇所の角の処理は自由とする。

【C面】

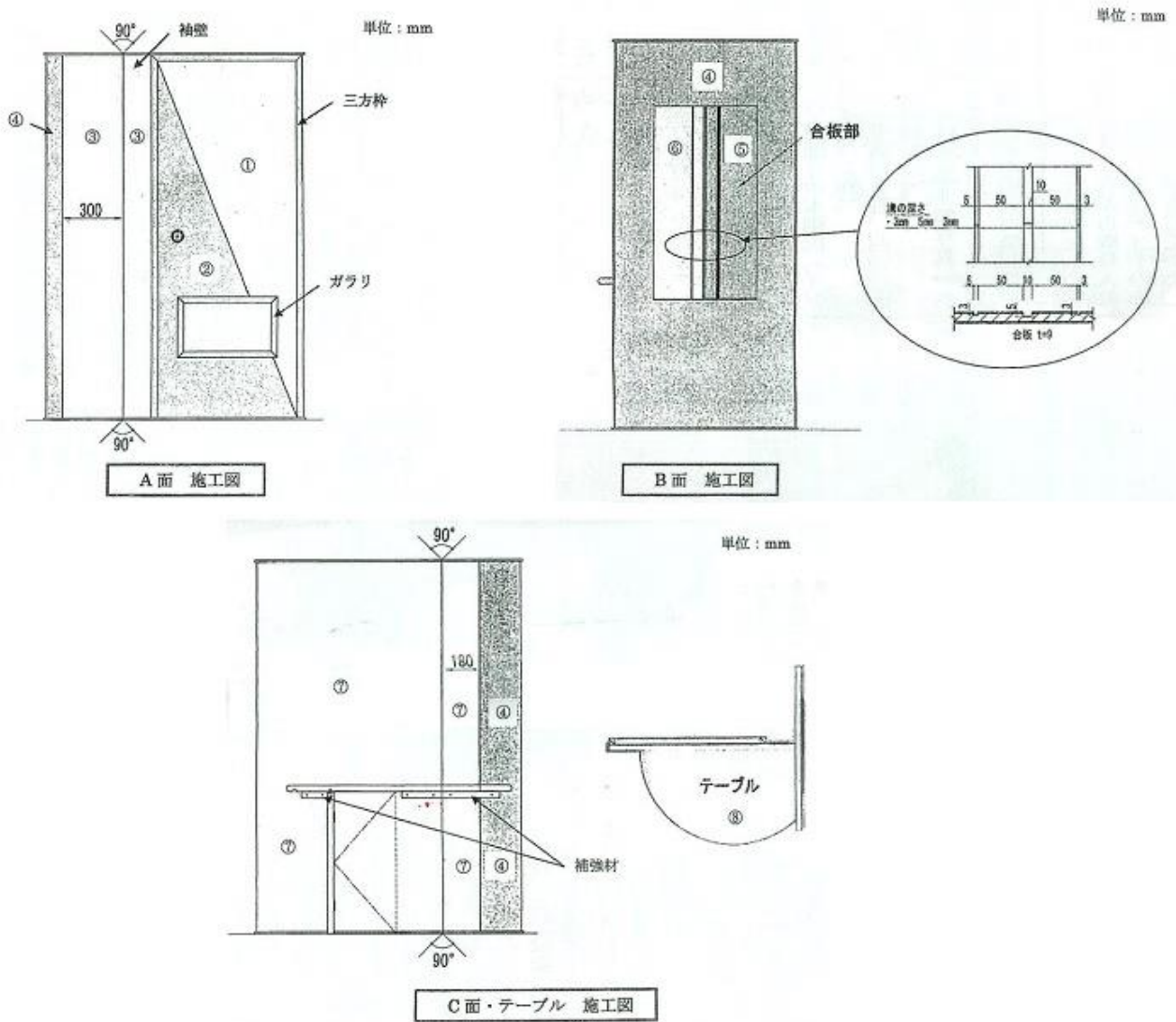
「壁面部」「テーブル部」および「C面・テーブル施工図」に従ってC面に化粧フィルムを貼る。

「壁面部」

- (1) ④化粧フィルム(濃い単色)をC面入隅から180mmの位置まで貼ること。
また、テーブル下部についてもC面入隅から180mmの位置まで貼ること。
- (2) ④化粧フィルム(濃い単色)と⑦化粧フィルム(淡い単色)は、C面の入隅から180mmの位置でジョイント(突付け)仕上げとすること。
- (3) C面に貼る⑦化粧フィルム(淡い単色)は、テーブルの天板とテーブル下部の支板の端部で見切り、テーブル下部(C面入隅左)には化粧フィルムを貼らないこと。
- (4) C面の⑦化粧フィルム(淡い単色)とA面との境界は、ドア枠と木口との段差の部分でカットして仕上げること。

「テーブル部」

- (1) テーブルに③化粧フィルム(木目柄)を貼る。
 なお、化粧フィルムは、テーブル裏面の溝部手前の角でカットして仕上げること。
- (2) 化粧フィルムは、木目柄を長手方向に使用する。
- (3) テーブル下の補強材および支板には、化粧フィルムを貼らないこと。



【2級 実技試験】

試験架台に化粧フィルムを貼る。

- ◆ 試験時間
 標準時間=1時間45分、打切り時間=2時間15分。
- ◆ 仕様
 - ① 試験架台のA面、B面に化粧フィルムを施工する。
 - ② 各面の施工順序は自由。
 - ③ 試験架台の上縁を天井、下縁を幅木と想定し施工する。
 - ④ 試験架台には、直に墨付けしないこと。

【A面】

(1)～(5)および、「A面施工図」に従い、A面に化粧フィルムを施工する。

- (1) 2枚の異なる①化粧フィルム(淡い単色)および②化粧フィルム(濃い単色)を「A面施工図」のようにガラリを避けて貼り、②化粧フィルム(濃い単色)をドア枠(三方枠)の端部から350mmの位置で縦に重ねジョイントすること。また、ジョイント部は右上前とし、ジョイント部の重ね幅は10mmとすること。なお、ドアノブは外さない。また、ドアノブには化粧フィルムを貼らないこと。
- (2) ドア枠(三方枠)は、淡い単色の化粧フィルムで貼り、角は留め仕上げとすること。なお、ドア上枠の天井面への化粧フィルムの折り返し幅は自由とする。
- (3) ガラリには、化粧フィルムを貼らないこと。
- (4) A面袖壁部およびA面入隅からB面側については③化粧フィルム(淡い単色)を貼ること。
- (5) A面とC面との境界は、ドア枠と木口との段差部分でカットして仕上げること。

【B面】

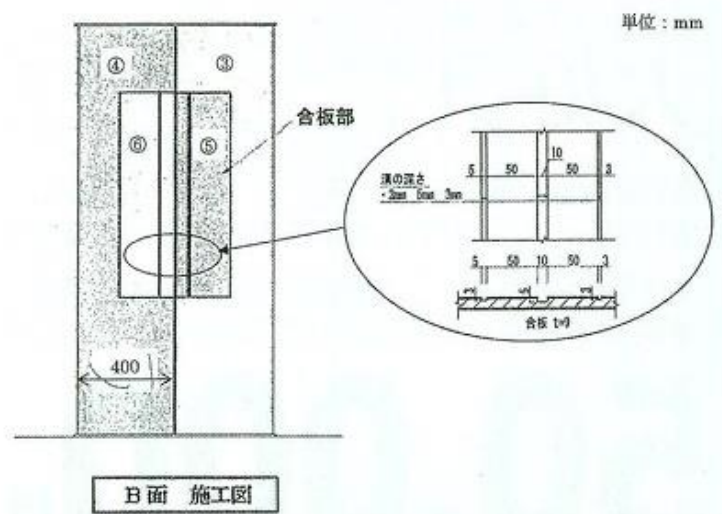
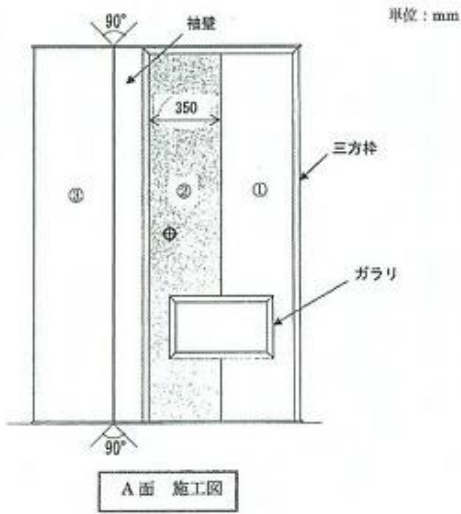
「壁面部」「合板部」および「B面施工図」に従ってB面に化粧フィルムを施工する。

「壁面部」

- (1) ③化粧フィルム(淡い単色)と④化粧フィルム(濃い単色)を「B面施工図」のようにB面左側端部から400mmの位置でジョイント(突付け)すること。なおB面壁面部の中心と合板部の中心とは一致しない場合がある。
- (2) B面においてジョイント(突付け)した④化粧フィルム(濃い単色)は、B面からC面に巻き込んで、C面出隅から10mmの位置でカットすること。

「合板部」

- (1) 合板部にある3mm幅および5mm幅の溝にパテ処理を行う。
- (2) パテ処理後、パテ処理箇所および合板部の4側面にシーラー処理をすること。
- (3) 合板部に向かって右に濃い単色の⑤化粧フィルムを、向かって左に淡い単色の⑥化粧フィルム貼ること。また、⑤および⑥の化粧フィルムは、合板部中央の10mm幅の溝の中で右上前でジョイントすること。なお、ジョイント部の重ね幅は、10mmとすること。
- (4) 合板部の4側面については、(3)と同様に⑤および⑥の化粧フィルムを貼ること。なお、出隅4箇所の角の処理は自由とする。



東京室内装飾新聞(第624号)より引用